



▲全国から集まった食器などを被災者の皆さんに届けた「お茶碗プロジェクト」▲



▲兵庫県4市町と栗原市・登米市が連携し、南三陸町と女川町を支援



▲協定書を取りかわし、南三陸町長、女川町長と市長が固い握手

## 6 学校の受け入れ

南三陸町、石巻市、いわき市などの沿岸部から、延べ74人の児童・生徒が市内に避難し、市内の学校、幼稚園に通学（通園）しました。

## 7 ボランティア

市民有志やNPOなどの各種団体、社会福祉協議会のボランティアセンターに集まった皆さんによる、沿岸部への支援活動が活発に行われました。

おにぎり、野菜などの食べ物や被災地に届ける活動や、南三陸町の皆さんが生活している市内避難所の慰問活動、病院などへの送迎支援、元気の花「ヒマワリ」を被災地へ植える活動、全国から募った食器類などの支援物資を、沿岸部の被災者へ届ける「お茶碗プロジェクト」などが行われました。

## 8 災害応援協定の締結

震災によって行政機能がまひ状態になった南三陸町と女川町を支援するため、市は兵庫県阪神地区の4市町（西宮市、

宝塚市、川西市、いながわちやう猪名川町）と登米市、南三陸町、女川町の間で5月21日に災害応援協定を締結しました。  
阪神地区の4市町は、平成23年6月1日から平成24年3月31日まで、被災した2町へ職員を派遣し、復興計画の策定業務などを支援しました。  
市と登米市は、被災した2町と、復興支援に当たる阪神4市町との調整を行いました。

## 9 宿営地の提供

被災地支援に従事する陸上自衛隊第50普通科連隊（高知県）の宿営地として、瀬峰総合運動場を提供しました。  
また、東北自動車道など地理的な条件の利便性から、被災地支援に携わる多数の団体などが、市内を拠点として活動しました。



▲宿営地として提供した瀬峰総合運動場

# VII

## 放射能との戦い

大地震による津波は、東京電力福島第一原子力発電所を襲い、放射能による汚染という新たな問題を発生させました。見えない恐怖から、安全・安心で美しい栗原を取り戻すための戦いが始まっています。

### 1 これまでの取り組み

#### ■体制の確立

平成23年3月11日  
震災と同時に「市災害対策本部」を設置。  
平成23年9月1日  
「栗原市環境放射線等の監視、対策等に関する規程」などの制定と、「放射線等監視対策検討部会（危機管理監以下22人体制）」を設置。  
平成23年10月1日  
「栗原市放射能対策アドバイザー」に、東北大学の石井慶造教授を委嘱。  
平成23年12月1日  
栗原市環境放射線等対策プロジェクト本部が発足。  
平成24年1月1日  
総務部危機管理室に環境放射線等プロジェクト専従班を編成。

#### ■広報活動

平成23年5月20日  
測定結果を安全・安心メール、市ホームページ、広報くりはらで公表。  
平成23年10月17日  
測定場所をまとめた放射線量測定マップを作成。各総合支所、市立図書館、市ホームページで閲覧可能に。

#### ■要望・陳情活動

平成23年8月3日  
東日本大震災復興対策本部宮城現地対策本部長に、

放射能被害などに対する要望書を提出。  
平成23年8月10日  
栗原市議会が東京電力に、被害補償などに対する要望書を提出。

#### ■放射能に関する講座など

平成23年5月17日  
東北放射線科学センターの職員を講師に、教養講座を開催。  
平成23年9月14日  
アドバイザーの石井教授を講師に、防災講演会「市民放射能対策セミナー」を開催。

▼小・中学校、幼稚園教諭などを対象に、放射能に関する基礎講座を開催。  
▼7月に、市内10地区で開催した市政懇談会で、取り組みの現状を説明。  
▼市民放射能講座を10地区で開催。  
（平成23年8月26日～9月2日 530人参加）  
▼い・ど・う市民セミナーによる講座を開催。  
（平成24年3月31日現在、15回）

### 環境放射線等対策くりはら市民会議の様子



▶環境放射線等対策くりはら市民会議の様子

▶学校プールの水質安全確認



▶放射線量測定器を使った空中放射線の測定

